

事例9-2



取組名	外国籍住民とのつながりづくりによる多文化共生の推進と町会の活性化		
町会名	寿台5丁目町会（寿台地区）	町会 データ	・人 口／245 人 ・世帯数／106 世帯 ・高齢化率／37.4% ・町会加入数／85 世帯 ・常会数／8 ブロック ・隣組数／21 組
取組概要	○ 町会の人口減少と高齢化による担い手不足が進行する中、外国籍住民と親睦を深めながら、町会運営の担い手として位置付けている。		

背景・課題

- ・ 当町会は、県営・市営の住宅団地で構成されており、高齢化が進む一方で、住民の出入りが激しい。棟によっては建て替えの話から他地区等へ転出する人もいるなど、町会事業の担い手の確保が難しい。
- ・ 月1回、一斉清掃をブロックごとに実施しているが、駐車場や公園、居住区域の道路や側溝等の清掃と、その範囲が広く、動ける人が少ないため、追いついていない。杖をついている人が草を集めている状況。草刈り作業への参加者には、刈払機を持つ人が少ない。シルバー人材センターの料金では、町会の財政的に頼むこともできない。駐車場の草刈りは、町会執行部や衛生部等が実施するが、刈払機を使っても半日を要する。
- ・ 町会事業として他に地区夏まつり後の懇親会がある。公民館事業として年6回サロン活動を実施しているが、参加者は15人程で、参加者は固定化している。

経過・取組内容

- ・ 草刈りができる人がいない中、ブラジル国籍の方が草刈りの担い手となってくれた。無償でやってくれていたが、燃料費等も考慮し、総会時に1回千円と決めた。人が出せないブロックは、費用を工面して、その方にお願いしている。
- ・ 技能実習生として働いているミャンマー国籍の人達が12人住んでいる。3年の期間内に介護

士等の試験に合格すると延長できるとのことで、受入企業側も、「ぜひ町会活動に貢献してもらいたい」と言ってくれている。日本語が分からない人もいて、コミュニケーションが課題となるが、草集めには参加している。また、地区の夏まつりの時にはミャンマー料理を振舞ってくれて、良い交流機会となった。

「多文化交流会」



- ・ 地区の夏まつりの際の神輿担ぎは、フィリピン国籍の人達も参加している。フィリピン国籍だが、生まれも育ちも地元という人もいる。

成果・今後の展望等

- ・ 町会としては、高齢化と人口の減少が進んでいく中、在住の外国籍住民の力も借りながら町会運営をしていきたい。
- ・ 外国籍住民が、地区や町会の活動に関わることで、周りの住民の多文化共生に対する意識も高まっているように感じられる。

【ポイント】

▼多文化共生により担い手を確保し町会運営